

患者と薬剤師のコミュニケーションを啓発するための動画作成と

その有用性

○栗原理¹⁾、三橋能弘¹⁾、程島直子¹⁾、岸野淳二¹⁾、中畑智予¹⁾、工藤香代子¹⁾、宮武昌也¹⁾、米澤晴子¹⁾、野村香織¹⁾、井手口直子²⁾、後藤恵子³⁾

1) くすりの適正使用協議会、2) 帝京平成大学、3) 東京理科大学

【背景】薬剤師による服薬コンサルテーションにより患者のアドヒアランスが向上するという研究結果があり、欧米では20～60分かけて対話する場合がある。【目的】患者啓発および薬剤師の生涯教育のため、患者と薬剤師がコミュニケーションをとりながら、共にパートナーとして治療に取り組んでいく様子をドラマにした動画を作成し、その有用性を検証した。【方法】日本人の主要死亡要因の一つである脳梗塞をテーマに選び、コンコーダンス・スキルおよび「患者とのコミュニケーション改善のための6ステップ」(アメリカ医師会)に基づいた患者と薬剤師とのコミュニケーション動画を作成した。動画を慢性疾患患者500人にウェブで視聴してもらい、アンケート調査を実施した。【結果】動画内容のポイント解説のわかりやすさや総合的な関心度は回答者の約8割が肯定的だったが、時間(11分)に対しては若干長いという意見があった。視聴前の「医師の説明で分からなかったことについて薬剤師と相談をよくしている」126人(25%)、「時々している」192人(38%)と比較して、視聴後は「今よりもっと薬剤師と話してみたいと思った」145人(29%)、「どちらかといえば話してみたいと思った」247人(49%)だった。動画の視聴後であっても「薬剤師と話してみたいと思わなかった」と回答した108人の主な理由として、薬剤師が忙しそうにしている(19%)、待ち時間が長い(28%)、プライベートの空間が無い(24%)などが挙げられた。一方、「既に十分なコミュニケーションが取れている」と回答した人も21人(19%)いた。薬剤師に対する肯定的な意見として「説明が丁寧」「生活面からの指導があり満足」などがあるものの、「説明がなかった」「隣の人に聞かれることが心配」「時間がかかる」という意見があり、259人は「特にない」等と回答した。【考察】日頃から薬剤師と対話している人は6割で、動画視聴後は薬剤師との対話を望む人の割合が約8割に上り、服薬コンサルテーションへの関心を高めてもらうことができた。患者からの動画の評価は概ね良好だったが、動画の有用性を高めるために、より要点を絞り、動画の長さも考慮したシナリオが必要と考えられた。これらの結果を参考にして、薬剤師向けの教育資料としての動画の有用性に関するアンケートを実施する予定である。